

在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

目的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

- 成果** 1. 絵画作品の修復を行った。(修復中作品5点)
 ア) クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵作品3点(宮川長春「遊女と禿図」1幅、中林竹洞「瀑布溪流図」1幅、狩野中信「月下秋景図」1幅)
 イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵作品2点(「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄「般若図」1幅)



「遊女と禿図」絵具調査



「瀑布溪流図」クリーニングの検討会

2. 海外において調査を行った。(2件)
 ア) ライプツィヒ民族学博物館(ドイツ) 絵画調査、2017(平成29)年2月27日～3月3日
 イ) インディアナポリス美術館(アメリカ) 絵画調査、2017(平成29)年3月21日～24日
 3. その他、協力・共同等 (共同研究1件)
 ドレスデン国立美術館陶器資料館所蔵の日本美術品の共同研究事業(ドレスデン国立美術館陶磁器資料館(ドイツ)所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶—The Bird cage vase」1合)

発表 ・山田祐子ほか：「画絹の生糸形状が発色に与える影響」 第38回文化財保存修復学会大会 東海大学湘南キャンパス 16.6.26

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、江村知子、元喜載、小田桃子、山之上理加、後藤里架、橋本広美(以上、文化遺産国際協力センター)、藤井佑果(保存科学研究センター)、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨(以上、研究支援推進部)